

(様式6)

〔認知症対応型共同生活介護用〕

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年7月9日

【評価実施概要】

事業所番号	2874100502		
法人名	社会福祉法人 大和福祉会		
事業所名	グループホーム まほろばの里		
所在地	兵庫県揖保郡太子町塚森125-1 (電話) (079)275-1858		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年6月4日	評価確定日	平成20年7月9日

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 7人, 非常勤 3人, 常勤換算	8.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	(必要に応じて実費負担)
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.9 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	二ノ丸内科・たつの市立御津病院・太子病院・福島歯科・つだ歯科
---------	--------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

太子町の田園風景が広がる一角に1ユニット9人が共同生活するグループホーム「まほろばの里」がある。隣には特別養護老人ホームが併設されている。グループホームの玄関横には事業所の畑もあり、四季折々の野菜を栽培し、食材の1つにしている。訪問した際には親ツバメがヒナに餌を与えているほのぼのとした場面を見ることができ、利用者と職員と一緒に観察し話題の1つになっていた。ツバメは毎年決まった時期に巣を作っており、安心できる環境であることを物語っている。職員は看護師資格を持った職員や介護経験のあるベテラン職員が働いており、安心した日常生活を送ることができる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4) 利用者に変化が無い場合は6ヵ月に1回を基本として見直しを行なっているが、日常の変化があれば直ぐに見直しを行うようにしている。 糖尿病を患っている利用者に対しては、変化も多いことから2ヵ月に1回見直しを行なっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4) 前回の第三者評価を参考にして、職員全員が自己評価に取り組んでいる。 調査項目を理解しながら自己評価を行い、その中で抽出した問題を管理者に対して、職員から提案することができるように取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6) 運営推進会議には、太子町担当職員を始め利用者家族代表・地域住民代表・有識者の参加を得、2ヵ月に1回定期的に開催している。グループホームの現状報告を始め利用者家族代表者からの意見・要望等も聴取している。2ヵ月に1度開催していることもあり、最近では議題不足の状態のため、会議毎にテーマを決めてそのテーマに基づく会議を行うことも検討している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8) 要望や苦情は、利用者の家族がホームを訪問された際に職員が聞くようにしているが、今のところ家族からの直接的な訴えは無い。運営推進会議において、意見・要望等を聴取しているため、できることから運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3) 自治会・老人会の行事に参加したり、近隣の保育園の園児の訪問がある。また、利用者と信頼関係のあるベテランのボランティアの方とも交流している。畑の草引きは、地域の方が率先して手伝ってくれ、また気軽に訪問してくれる。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の「仲良く笑顔で歩こうよ」は、利用者・家族・地域関係者との思いやりを大切にしたいとの思いで作成しており、管理者は実践するように努力をしている。	○	より一層グループホームが地域に愛され、地域の一員として仲良く笑顔で歩んでいけるように、地域住民の目に見える形で地域密着型のグループホームとしての独自の理念を検討することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員には運営方針としてホームの方向性を示す機会はあるが、職員に対して地域に密着した理念の思いを説明する機会が少ない。	○	全職員が集まる職員会議等、機会あるごとに理念の意味を説明するとともに、理念を全員で共有する機会を持ち、実践する取り組みが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や自治会の行事に参加したり、近隣の保育園の園児の訪問がある。 また、利用者と信頼関係のあるベテランのボランティアの方とも交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は第三者評価の意義を理解しており、前回の評価結果を確認しながら、職員全員で自己評価に取り組んでいる。 また、改善については、できるところから取り組めるように全員で話し合っている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、太子町担当職員を始め利用者家族代表・地域住民代表・有識者の参加を得、2ヵ月に1回定期的に開催している。活発な意見交換を行い、サービス向上に向けた意見を聴取している。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは太子町行政からの信頼も厚く、措置入所等の相談を受けたり、自らのサービス向上に向けた情報を入手したりと、日頃から連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、各利用者家族あてに担当職員が、利用者の状況を書いた手紙と会計報告を送付している。 年に2回、グループホームの記事が記載された法人のニュースレター（機関誌）を送付している。 職員の異動に関する情報を家族に知らせる機会が設けられていない。	○	職員の異動等に関する情報提供として、月1回送付している家族あての手紙に職員の異動通知を同封するなどの工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族がホームを訪問された際に職員が要望や苦情を聞くようにしている。 ホームを訪れる機会が少ない家族に対しては、電話やケアプラン作成時の確認書に要望等を記載してもらう取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在ホームで働いている職員は、特別養護老人ホームから異動した職員で構成されており、利用者は日頃からグループホームと特別養護老人ホームを行き来することが多く、職員と利用者の関係性が構築されている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主に事業所内研修が行なわれており、研修が残業になる場合は超過勤務手当が支給されている。 研修に参加できなかった職員に対しては、伝達研修が行なわれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にはNPO法人が設立したグループホームがあるが、運営法人の違いからか、ネットワーク作り等の活動は現状では行なわれていない。	○	他の事業所とのネットワーク作りは難しい面もあるが、質の向上を目的に情報交換を行なえるような場の設定が望まれる。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを利用する前に家族と利用者で見学してもらうことにしている。 そのうえでグループホームの雰囲気を十分に味わってもらい、納得してから利用していただくように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	玄関を出た所に事業所の畑を作っており、職員は利用者から「うね」の作り方や野菜の切り方等を教えてもらっている。 また、昔懐かしい歌の意味も教えてもらったり、お互いに学ぶ機会を多くもつように日頃から努めている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者の思いや希望を聞くようにしており、利用者本位の生活が営めるよう配慮している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意見や要望は少ないが、日頃から利用者の状態を把握し、職員同士で協議しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者に変化が無い場合は6ヵ月に1回を基本として見直しを行なっているが、日常の変化があれば直ぐに見直しを行うようにしている。 糖尿病を患っている利用者に対しては、変化も多いことから2ヵ月に1回見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在の所、グループホーム以外の多機能性は作られておらず今後の課題である。	○	グループホームの職員はベテランが多いので、地域の在宅認知症の支援等、認知症ケアの専門性を生かした支援の導入も検討することが望まれる。

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・利用者の希望があれば、かかりつけ医とも連携を取っているので、通院も可能な状況である。 また、多くの協力医療機関とも連携をとれる体制があり、往診にも対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時に家族・利用者から聞き取りをしており、重度化や終末期に向けて対応できるように取り組んでいる。また、重度化に関する指針も作成している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	何気ない会話の中にもプライバシーに気をつけた会話を心がけている。 介護記録は事務所の鍵のかかる引き出しに保管しており、個人情報の取扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意見や行動を尊重し、個々人に応じた対応を心がけている。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の味付けや盛り付け等、利用者のできることについては、職員が声かけをしながら一緒になって取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴することができる。入浴時間やお湯の温度にも配慮している。浴槽は少し大きめであり、仲の良い利用者同士が一緒に入り楽しんでいる。 入浴を好まない利用者には、声かけを充分に行い、納得のうえ入浴してもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に1～2回は外食し、その後にカラオケを楽しんでいる。 利用者は社会福祉協議会に登録をしている仲の良いボランティアとも交流している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	グループホームの周りのはのどかな田園地帯であり、天気の良い日には必ず散歩を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜に施錠し、昼間の出入りは自由にできるように取り組んでいる。 畑仕事を見ながらくつろぐこともできるように、玄関の外には椅子やテーブルが並べてある。		

第三者	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に3回の消防訓練を行なっている。 その内の1回は夜を想定した訓練を行い、ホーム周辺の家庭の方の理解を得、協力してもらっているが、実際に災害が発生した場合の協力体制の話し合いはなされていない。	○	消防訓練は、地域の方の理解を得て実施されているが、日頃から災害を想定し、災害が発生した場合の対応について地域の方と協力体制をとることが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量は生活リズム表に記載している。 併設の特別養護老人ホームの管理栄養士の指導を得て、摂取カロリーに配慮した献立作りを行なっている。 水分量については、1日に1.6ℓを目安に摂取するように取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事中は、戸を開けるなどして温度調整を行なっている。 和やかな雰囲気の中で生活ができるように、バックグラウンドミュージックを適度な音量でかけている。	○	共用空間については皆が快適に生活を送ることができるように、脱衣室内で無造作に置かれていた洗剤等の収納など、常日頃から整理整頓を心がけることが望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に利用者の好みのものを持ち込む制限をなくし、利用者が居心地よく過ごせるように配慮しているが、利用者が自宅での生活で使用されていたものが少ない居室になっている。	○	居室は利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されているが、家族にも依頼し、今まで家で使用していた利用者の持ち物を持ち込んでもらうなど、今後より一層利用者の個性に合わせた部屋作りやアレンジが望まれる。



は、重点項目。